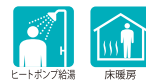


北海道新ひだか町

『静内温泉』 (北海道新ひだか町)



贈呈理由

貯湯槽を屋内・地下の2段貯湯とし、災害時の非常用水活用を考慮した業務用エコキュートの導入



静内温泉



浴室



システム

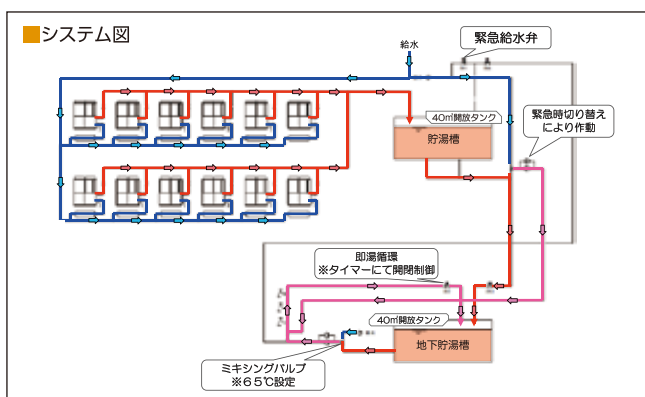
峰々が連なる日高山脈を背に、雄大な太平洋を望む温暖で緑あふれる自然に恵まれた涼夏少雪の郷に佇む『静内温泉』は、2006年に静内町と三石町が合併して誕生した新ひだか町にある町民保養施設である。国内のサラブレッド生産の8割を占める北海道日高地方に位置し、11年3月の休館以降、町民からの再開の声を受けて13年10月にリニューアルオープンした。泉質のナトリウム炭酸水素塩泉は、皮膚の表面を軟化させる作用があり、皮膚病、やけど、切り傷によいとされ、皮膚を滑らかにすることから「美肌の湯」としても知られ、よく温まると評判になっている。

光熱費の大幅削減を達成

同施設は、燃料費削減と環境負荷低減を目的にA重油からオール電化の施設に生まれ変わり、給湯設備には施設規模が国内最大級となる業務用エコキュートの他、源泉加温の空気熱源ヒートポンプチラーを採用している。

給湯蓄熱は、屋内施設の貯湯槽(ステンレスタンク40m³)と地下ピット貯湯槽(40m³)を備え、休日のピーク対応と災害時の非常用水としての活用を考慮した2段貯湯としている。蓄熱式給湯システム運転概要は、夜間にエコキュートで生成

した温水を1段目の屋内貯湯槽に貯湯し、2段目の地下ピット貯湯槽から通常の給湯はまかない、地下ピット貯湯が少なくなると屋内貯湯槽より補給するシステムとしている。毎日、1段目の屋内貯湯槽から2段目の地下ピット貯湯槽に温水が移されるため、常に新しいお湯が補給される。その他、暖房には蓄熱式電気床暖房を採用するなど、災害時の防災拠点としての役割りもあわせ持つ温泉保養施設であり、旧施設のA重油使用時と比較して光熱費の大幅削減が達成されている。



静内温泉

所在地: 北海道日高郡新ひだか町静内浦和106
 建築設計: (株)アトリエアク
 建築施工: 酒井建設(株)
 蓄熱設備設計: (有)基設備研究所
 蓄熱設備施工: 機長瀬設備工業
 延床面積: 1,500m²
 竣工: 2013年(新設)

蓄熱設備概要

顕熱蓄熱式電気床暖房 194.41kW(北海道ちくだんシステム) 敷設面積: 200.74m²
 業務用エコキュート 30kW×12台(三菱重工業)
 貯湯槽: 40m³×2基
 空気熱源ヒートポンプチラー 56.8kW×3台(ディンプレックス・ジャパン)
 空気熱源ヒートポンプチラー 14kW×1台(三菱電機)